

『都市の経済学 小テスト No. 4』

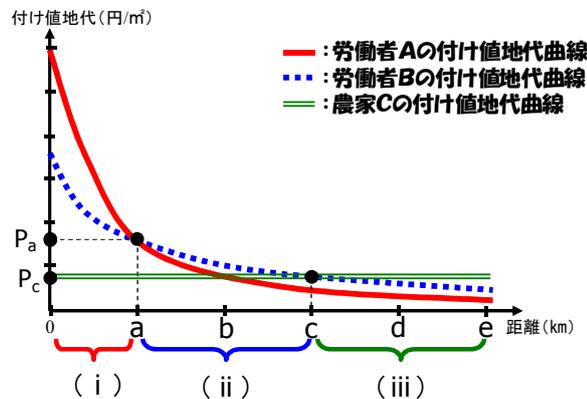
以下の各問に答えよ。ただし、解答はマークシート方式となっているので、問題の解答番号に入る数値または選択肢番号を解答用紙（マークシート）に解答すること。

※で囲まれた数字は解答番号を示す。○で囲まれた数字は選択肢番号を示す。

0. あなたの問題用紙番号は1番です。1に①をマークしなさい。

1. 土地市場の分析を行う前に複数の仮定を置いているのは、仮定を置くことによって、属性の2 (①同じ、②等しい、③異なる、④その他) 土地を3 (①異質に、②同質に、③上質に、④その他) することが可能になるからである。これによって、土地をこれまでのミクロ経済学で学んだような一つの市場に表すことが出来る。
 2. 地主は自分の所有している土地を、一番4 (①安全に、②危険に、③高く、④安く) 借りてくれる人に貸したい。
 3. 家計は効用水準を5 (①等しく、②変化、③最大化、④最小化) できるように、予算制約を考慮しつつ、可能な限り6 (①安い、②高い、③異なる、④その他) 地代を提示する。
 4. 上記のように、家計が提示する地代を7 (①市場地代、②付け値地代、③市場価格) と呼ぶ。
 5. 予算制約線の傾きは、8 (①消費する財の組、②可処分所得、③合成財価格、④付け値地代) を表す。
 6. 通勤に交通費がかかるとき、予算制約線の縦軸の切片は、9 (①交通費、②所得の総額、③可処分所得の総額、④合成財価格、⑤付け値地代) を表す。
 7. 土地市場の均衡では、一ヶ月当たりの交通費が3万円と5万円の場所における両者の効用水準は10 (①3万円の場所が高くなる、②5万円の場所が高くなる、③等しくなる、④その他) 。
 8. 上記の問いにおいて交通費が3万円の場所での効用の変化について考えてみよう。
地代が他の場所と同じならば、交通費の安い3万円の場所に人が集まる。このとき、その場所の土地サービスに対する需要曲線は11 (①右にシフトする、②左にシフトする、③移動しない) ため、均衡地代が12 (①変化しない、②上昇する、③下落する)。この結果、個人の予算制約線は13 (①変化せず、②左にシフトし、③右にシフトし)、それに接する無差別曲線も14 (①変化しない、②左にシフトする、③右にシフトする) ことから、この地点に居住することで得られる効用水準は15 (①変わらない、②高くなる、③低くなる、④その他)。
 9. 土地市場が均衡している状態では、CBDから距離が離れるに従って付け値地代は16 (①低くなる、②高くなる、③その他) 。
- また、土地サービスの最適な消費量は17 (①小さくなる、②大きくなる、③0になる)。これは、同一の無差別曲線に接する予算制約線の接点と傾きの変化を確認することで理解できる。

10. 労働者 A、労働者 B、農家 C の 3 種類の個人が同一の都市内にいる場合、彼らの付け値地代はそれぞれ図のようになった。この時、区間 (i) の土地を借りるのは 18 (①労働者 A、②労働者 B、③農家 C) であり、区間 (ii) を借りるのは 19 (①労働者 A、②労働者 B、③農家 C) であり、区間 (iii) を借りるのは 20 (①労働者 A、②労働者 B、③農家 C) である。



11. このとき、労働者 A の付け値地代が市場地代となるのは 21 (①区間 (i)、②区間 (ii)、③区間 (iii)、④区間 (i) から区間 (ii)、⑤区間 (ii) から区間 (iii)、⑥その他) である。
12. 労働者 A と労働者 B の違いは所得にあるとしよう。所得の異なる個人が同一の都市内に存在するためには、各労働者が提示する付け値地代曲線が、どこかで交差するような形か、または 22 (①交差することが無い形、②完全に一致する形、③その他) でなくてはならない。どちらのパターンであるかを確認するためには、地点 23 (①a、②b、③c、④d、⑤e) と、そこから少し離れた地点における各労働者の付け値地代を比較することで可能である。なぜなら、各労働者の提示する付け値地代曲線がどこかで交差するような形であるならば、少し離れた地点における付け値地代は 24 (①同じになる、②異なる、③Pa になる、④その他) からである。また、22 であるならば、離れた地点における付け値地代は 25 (①同じになる、②異なる、③Pc になる、④その他)。
13. 最終的に、所得が高いのは 26 (①労働者 A、②労働者 B、③農家 C) である。なぜなら、地点 23 の場所から少しだけ離れた地点における付け値地代の下落幅が大きいのは 27 (①高所得者、②低所得者、③農家) だからである。また、その下落幅はその場所における 28 (①交通費、②合成財の消費量、③土地サービス量の消費量、④合成財価格、⑤その他) の大小関係に依存している。